

第5章

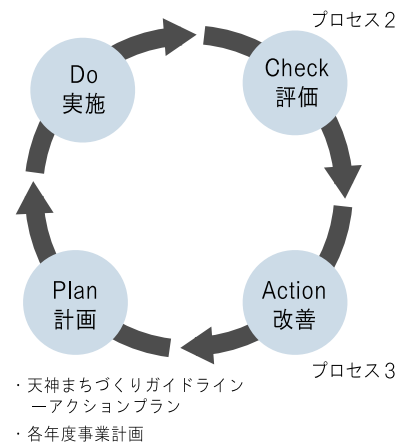
まちづくりの検証

まちづくりガイドラインの評価手法

[基本的な前提]

評価システムは、あらかじめ設定した「目標」が達成されているかどうかを、規定の「評価方法」に従って評価していくものであり、来街者や関係者の方々など、多面的な立場からの評価を反映できるシステムとします。

「目標」の評価においては、目標達成の成果を判断し、目標達成のための行動改善を行うとともに、目標の評価・改善も行います。こうしたPLAN（計画）⇒DO（実施）⇒CHECK（評価）⇒ACTION（改善）の循環を想定した評価システムを基本としています。

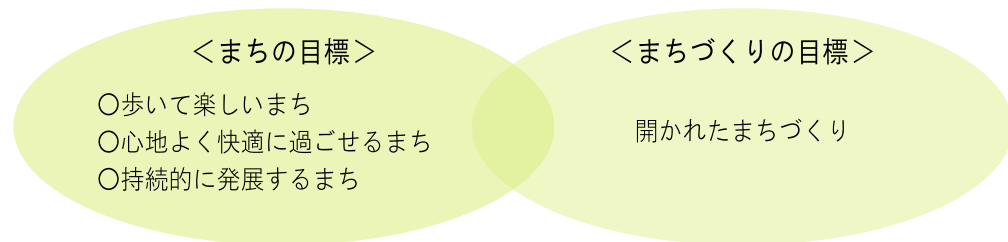


・天神まちづくりガイドライン
-アクションプラン
・各年度事業計画

プロセス1 まちの目標の確認

本ガイドラインでは、「将来の目標像」を掲げ、その目標達成のため「まちづくり戦略1～10」を設定しています。これは「まちの目標」であり、まちづくりの結果としての到達目標です。さらに、多様な関係者が積極的な関与・行動・参加をする「開かれたまちづくり」を目指し、天神が抱える問題を「参加型まちづくり手法の導入」によって克服しようとしています。これは、「まちづくりの目標」であり、まちづくりの「プロセス」としての目標といえます。

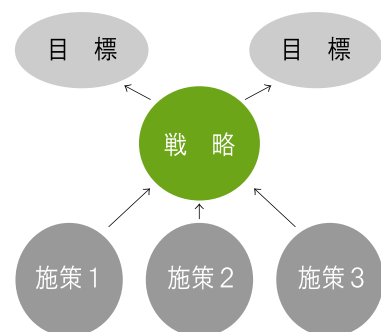
従って、「まちの目標（結果）」と「まちづくりの目標（プロセス）」が達成されているかどうか、その達成度を評価し、PDCAの観点から継続的な改善を行うこととします。



- ＜まちの目標＞
- 歩いて楽しいまち
 - 心地よく快適に過ごせるまち
 - 持続的に発展するまち

- ＜まちづくりの目標＞
- 開かれたまちづくり

それぞれの目標を達成するために、戦略と施策があります。



- (目標)
- ・「歩いて楽しいまち」「心地よく快適に過ごすまち」「持続的に発展するまち」の実現
 - ・「開かれたまちづくり」の達成
- (戦略)
- ・「毎日がフェスティバル戦略」など、戦略1～10まで
 - ・関係者の積極的な関与・行動による開かれたまちづくり
- (施策)
- ・各種施策

プロセス2 評価方法

「目標」の評価を行う

例えば、目標像1「歩いて楽しいまち」が達成されているかどうかについては、歩行者数の増加などの「定量的な指標の増減」と賑わいの評価など「定性的な指標の良否」の指標を総合的に評価し、「歩いて楽しいまち」がどの程度実現しているかを診断します。あわせて各「戦略」についても、目標に対して戦略が有効に、効率的に働いているかを診断していきます。

まちの目標										まちづくりの目標	
上質に洗練され、いつも賑わいがある『歩いて楽しいまち』			環境にやさしく安全安心、だから誰もが『心地よく快適に過ごせるまち』			変化に対応し、アジアの中で『持続的に発展するまち』				開かれたまちづくり	
戦略	戦略1 毎日がフェスティバル戦略	戦略2 ふさわしく絵になる戦略	戦略3 天プラエンターテイメント戦略	戦略4 「乗りモノ」スマート戦略	戦略5 大人のまなざし行動戦略	戦略6 快適クーリング戦略	戦略7 「天神が舞台、天神が地味」戦略	戦略8 まちの新陳代謝戦略	戦略9 アジア客ツール促進戦略	戦略10 「New5e天神」づくり戦略	関係者の積極的な関与・行動による開かれたまちづくり
定量的指標(例)	・小売販売額 ・イベント数・参加数	・ポイント数 ・アライバル	・歩行者数	・公共交通利用率	・犯罪数	・CO ₂ 削減率 ・緑化率	・地価 ・従業者数	・事業所数	・観光客数 (アジア客)	・W「天神協議会」の会員加入数	・協議会のイベント参加数 ・W「天神協議会」の会員加入数
定性的指標(例)	・賑わいの評価	・景観の評価	・歩行アメニティの評価 ・ホスピタリティの評価	・回遊アメニティの評価 ・交通問題のストレス評価	・マナー・ルールの評価 ・ホスピタリティの評価 ・まちの安心感の評価	・環境・エコ意識の評価	・世界水準の魅力評価 ・業務環境の評価	・景観の評価	・賑わいの評価 ・ホスピタリティの評価	・天神に対する愛着度	・天神に対する愛着度 ・会員の達成感

上記の評価プロセスに必要な「まちづくり診断カルテ（マニュアル）」を作成します。（評価項目の設定や判断の指針となるもの）

プロセス3 改善方法

- 「まちづくり診断カルテ」を基に、達成度を診断し、まちの目標・戦略・施策などについて、改善の方向性を検討します。
- 改善の方向性について関係者と合意形成を行います。
- 各年度の事業計画の作成、3年毎のアクションプランの作成、5～10年後のガイドラインの見直しに反映していきます。